



耕うん機  
FU600・800  
取扱説明書

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

# お買いあげありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただきました販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道でのトレーラー走行はできません。

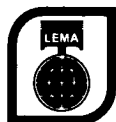
(本機は小型特殊自動車の認定を受けていません。)

●夜間作業はできません。

(本機は作業灯が装備されていません。)



e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。



本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリンエンジン排出ガス自主規制に適合しています。

# はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた商品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。

本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の実作に習熟してください。

## 安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

### ⚠ 危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

### ⚠ 警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

### ⚠ 注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

## その他の表示

### 取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

## 取扱説明書について

この取扱説明書は

- ・作業をするときは、必ず携帯してください。
- ・本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- ・紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

# 目 次

|                                 |               |    |
|---------------------------------|---------------|----|
| 安全にお使い<br>いただくために               | これだけはぜひ守りましょう | 4  |
| 安全ラベル                           |               | 9  |
| サービスと保証について                     |               | 11 |
| 各部の名称と取扱いをおぼえましょう               |               | 12 |
| エンジン スイッチ                       |               | 14 |
| 燃料コック レバー                       |               | 14 |
| エンジン回転調整レバー                     |               | 15 |
| チョーク レバー                        |               | 15 |
| ロータリー クラッチ レバー                  |               | 16 |
| 変速レバー                           |               | 16 |
| サイド クラッチ レバー (FU600LHタイプ、FU800) |               | 17 |
| 始動グリップ                          |               | 17 |
| ハンドル高さ調整レバー                     |               | 18 |
| フロント ウェイト                       |               | 18 |
| ホイール ウェイト                       |               | 19 |
| 主クラッチ レバー                       |               | 19 |
| 車輪取付けピン                         |               | 20 |
| 尾ソリ                             |               | 20 |
| 作業前に点検調整しましょう                   |               | 21 |
| 作業前の点検                          |               | 21 |
| ガソリンの点検                         |               | 22 |
| エンジン オイルの点検                     |               | 24 |
| エア クリーナ (空気清浄器) の点検             |               | 25 |
| タイヤ空気圧の点検                       |               | 25 |
| 変速機オイルの点検                       |               | 26 |
| ロータリー爪の点検                       |               | 27 |
| ロータリー オイルの点検                    |               | 28 |
| 車軸取付けピンの点検                      |               | 29 |
| ハンドル高さの調整                       |               | 30 |
| ロータリー バック牽制の点検                  |               | 30 |
| エンジンのかけかた                       |               | 31 |
| 運転操作のしかた                        |               | 36 |
| 変速                              |               | 36 |
| ●変速レバー                          |               | 36 |

|                       |    |
|-----------------------|----|
| 運転                    | 38 |
| ●主クラッチ レバー            | 38 |
| ●ロータリ クラッチ レバー        | 39 |
| ●エンジン回転調整レバー          | 39 |
| 旋回                    | 40 |
| ●サイド クラッチ レバー         | 40 |
| 耕うん作業                 | 41 |
| ●尾ソリ                  | 42 |
| ●抵抗羽根                 | 42 |
| ●ロータリ爪配列              | 44 |
| エンジンのとめかた             | 45 |
| 定期手入れをしましょう           | 48 |
| 定期点検                  | 48 |
| やさしい点検・整備             | 49 |
| エンジン オイルの交換           | 49 |
| 変速機オイルの交換             | 51 |
| エア クリーナ(空気清浄器)の清掃     | 52 |
| 点火プラグの点検、調整、変換        | 54 |
| 燃料ろ過カップの清掃            | 56 |
| 主クラッチ ケーブルの点検、調整      | 57 |
| エンジン回転調整ケーブルの調整       | 58 |
| ロータリ クラッチ ケーブルの点検、調整  | 59 |
| サイド クラッチ ケーブルの調整      | 60 |
| 駆動ベルトの点検、調整           | 61 |
| ロータリ各部のゆるみ点検          | 64 |
| ロータリ ドライブ チェーンのグリース塗布 | 65 |
| 車輪の取外し、取付け            | 66 |
| ロータリ爪の取外し、取付け         | 67 |
| ロータリ爪軸の取外し、取付け        | 68 |
| 長期間使用しないときの手入れ        | 69 |
| 故障のときは                | 71 |
| 主要諸元                  | 72 |

## 警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

### ●作業を始める前に

- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止させる方法を習得してください。
- 妊娠中の人、飲酒した人、過労、病気、薬物の影響で正常な運転ができない人は本機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- 作業をするときの服装は、作業帽などをかぶり、滑り止めのついた作業に適した靴をはいて、キチンと身体にあったものを着用してください。
  - ・裸足や爪先が空いている靴やサンダルで操作をしたり、だぶついた服や巻きタオル、腰タオルなどは動いている部品に引っかかるなど、思わぬ事故を起こすことがあります。
- 適切な説明がない状態で他の人に本機を使用させないでください。特に子供には絶対に操作させないでください。
- 本機を他人に貸す場合は、取扱い方法をよく説明し、取扱説明書をよく読むように指導してください。
- 作業前の点検や定期点検を必ず行い本機を常に良好な状態にしておってください。不具合のある状態や問題のある状態で操作すると、大ケガをすることがあります。
  - ・点検作業は、通行の妨害にならないような場所及び平坦で安全な場所で行ってください。
  - ・本機、作業機を吊り上げて点検する場合は、必ず落下防止を行ってください。
  - ・作業機の取付けは平坦で安全な場所で行ってください。
  - ・作業内容に適した推奨作業機を使用し推奨以外の作業機は使用しないでください。思わぬ事故の原因となりケガをするおそれがあります。

## 警告

- 作業内容に適した作業機はお買いあげいただいた販売店に、ご相談ください。
- 作業機を使用する前には、作業機の取扱説明書をよくお読みください。
- カバーやラベル類、その他の部品を外して操作しないでください。
- 本機や作業機の改造は絶対にしないでください。また、指定部品以外は使用しないでください。  
適性な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故の原因となることがあります。
- 屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は換気に十分注意してください。換気が悪いと有害な一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

## ●作業中

- ほ場に人やペットを近づけないでください。特に子供には注意して、子供がほ場に入ったときにはエンジンスイッチを切ってください。思わぬ事故を引き起こし、ケガをするおそれがあります。
- 傾斜地での作業は、本機の落下や巻き込まれ、転倒等による事故のおそれがあります。やむを得ず傾斜地で作業する場合は、必ず作業前に本機が安全に使用できるか確認し、十分注意して作業を行ってください。
  - ・急な傾斜地では作業はしないでください。傾斜角度が大きいほど、事故がおきやすくなります。また、使用される作業機や作業内容、路面の状態により、安全に使用できる傾斜角度は小さくなります。
  - ・傾斜地での作業は、上下方向よりも、なるべく横方向(等高線方向)に行うようにしてください。上下方向の作業は、本機が滑り落ちて来たり、運転者の足元が滑って本機に巻き込まれたりしてケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地での旋回は転倒事故のおそれがあるので、速度を十分におとし、周囲に注意してハンドル操作で行ってください。
  - ・傾斜地では必要以上に速度を上げないでください。速度が速すぎるとバランスを崩しやすく転倒してケガをするおそれがあります。
  - ・傾斜地では本機がかたむき、燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

## 警告

- ほ場への出入り、溝または畦の横断、軟弱地の通過などは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、行ってください。転倒しケガをするおそれがあります。
  - ・急傾斜、溝または畦超えを行うときは、アユミ板等を使用して、上りは前進、下りは後進で行ってください。本機を落下させたり、車軸部に過大な力をかけると本機を破損するばかりでなくケガをするおそれがあります。
  - ・ほ場の状況を十分に把握し、廻りに注意して行ってください。
- 作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止させてから点検を行ってください。
- 休けいなどで本機を離れる場合はエンジンをとめて安定した場所で確実に固定してください。
- 爪(タイン)は鋭く尖っていて、高速で回転します。間違って接触すると大ケガをするおそれがあります。
  - ・エンジンがかかっているときは、絶対に手や足を爪に近づけないでください。
  - ・作業中に爪を点検するときは、必ずエンジンを停止し、不意に始動しないように、点火プラグ キャップを取外して行ってください。また、手を保護するために厚手の手袋をしてください。
- 回転している爪に異物が当たると、非常に強い力でとび散りそれにより大ケガをするおそれがあります。
  - ・作業の前にほ場から棒、大きな石、針金、ガラス等を取り除いてください。
  - ・作業中異物に当たったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグキャップを取外し、注意して損傷を調べてください。損傷したまま再始動すると思わぬ事故になり、ケガをするおそれがあります。

## 警告

- ガソリンは非常に引火しやすくまた気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
  - ・ 燃料を補給するときや燃料タンクの付近ではタバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
  - ・ 燃料はこぼさないように注意し、所定のレベル(給油限界位置)を超えないように補給してください。燃料キャップを確実に締め、もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。
  - ・ ふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。屋内や囲いのある場所で作業を行うときは、排気ガスが蓄積しないように、適切な換気をしてください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。
- 旋回するときは、変速レバーを最低速にし、エンジン回転を下げ、周囲や足元に十分注意し、人や障害物がないことを確認して余裕をもって行ってください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ロータリ作業時は爪回転を止めて旋回してください。回転する爪にふれると死傷事故を起こすおそれがあります。
- **作業が終わったら**
  - 次の作業のために本機の点検、整備を行ってください。
  - 作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行ってください。
  - エンジン上部に物をのせるのはやめてください。
  - 停止後のエンジンとマフラ(消音部)は非常に熱くなっています。特にマフラは熱くなっているのので、手で触れたりポリタンク等をのせないでください。やけどをしたり、変形や漏れなどが発生する場合があります。
  - ボディカバー等をかける場合は、エンジンが冷えてから行ってください。火災を引き起こすおそれがあります。

## 警告

### ●積み降ろしおよび運搬時

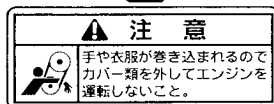
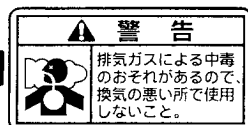
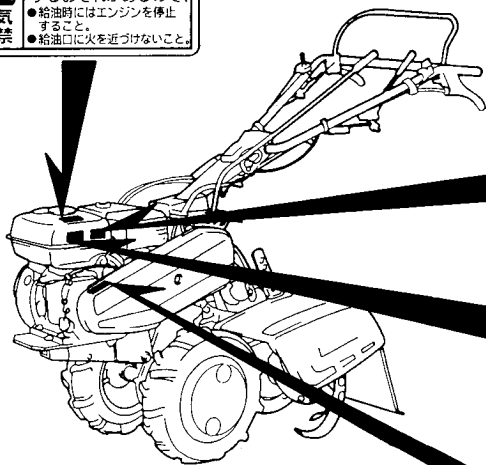
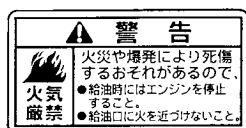
- 本機をトラック等へ積み降ろしするときや、運搬をするときは次の指示に従ってください。守らないと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
  - ・荷台から本機、作業機がはみ出さない車を使用してください。
  - ・積み降ろしは、平坦な場所で行ってください。
  - ・積載する車は、エンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、変速レバーを低速に入れて確実に動かない様にしてください。
  - ・荷台に載せた本機は水平にして、丈夫なロープで確実に固定してください。
  - ・エンジンをかけて積載するときは、天井のない車を使用してください。
  - ・使用するアユミ板は、本機、作業機の重量に耐えられるもので、滑り止め、外れ防止のフックのあるタイヤ幅以上の幅があるものを使用してください。
  - ・アユミ板の傾斜角度が15度以下になるような長さのものを使用してください。(目安として荷台の高さの4倍以上の長さ)
  - ・アユミ板は車に対しまっすぐ、平行にしっかりかけてください。
  - ・ロータリ装備時は、爪が回転していないことを確認してください。
  - ・積み込みは前進で、降ろすときは後進で行ってください。
  - ・アユミ板に乗る前に、タイヤとアユミ板が一直線であることを確認してください。
  - ・本機は最低速でゆっくり進め、途中で主クラッチレバーを切ったりしないでください。
  - ・積載後本機のエンジンを止め、変速レバーを低速に入れてください。
  - ・燃料コックは“閉”にして運搬してください。

## 安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

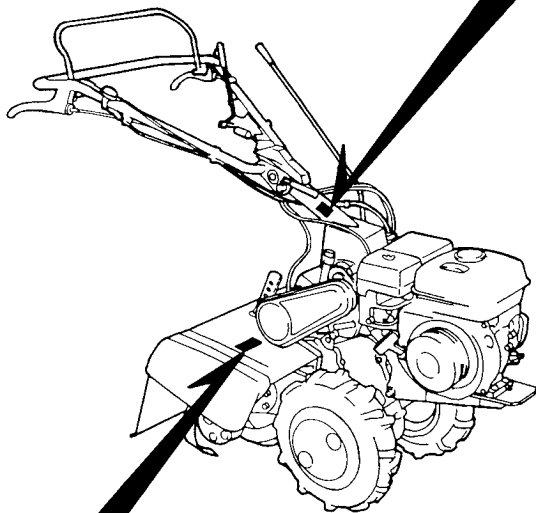


## ⚠ 警告



死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。

- 急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。



## ⚠ 危険



回転している爪にふれると死傷することがあるので、回転している爪に近づかないこと。

- お買いあげいただきました商品について、ご使用中の故障やご不明な点またサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店にお申し付けください。

ご利用の際は商品名とフレーム号機をご連絡くださるようお願いいたします。

農用トラクター(歩行型)

ホンダFZAV

(区分;K)

※フレーム号機および銘板の表示

位置は13頁をご覧ください。

(左の銘板はFU600-Kタイプの物です)

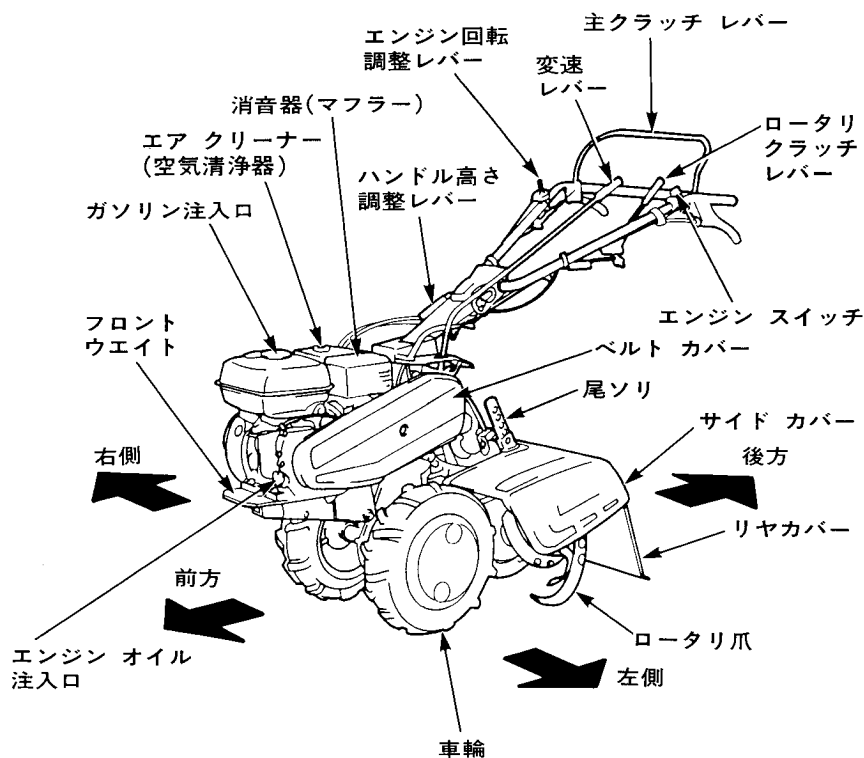
本機の改造や、仕様の限度を超える使用は保証の対象外になるのでご注意ください。(詳細は保証書をご覧ください。)

## 認定番号

安全鑑定適合番号が必要な場合は下記の番号をご使用ください。

| 安全鑑定型式名  | 安全鑑定適合番号 |
|----------|----------|
| ホンダ FZAV | 15010    |
| ホンダ FZAW | 15110    |

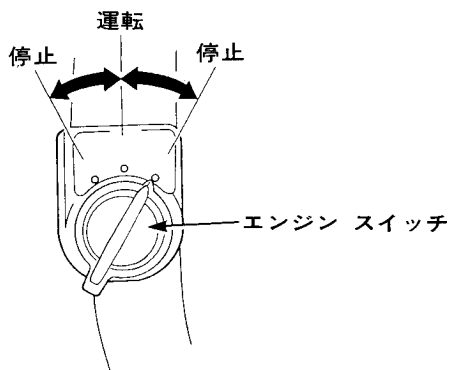
# 各部の名称と取扱いをおぼえましょう





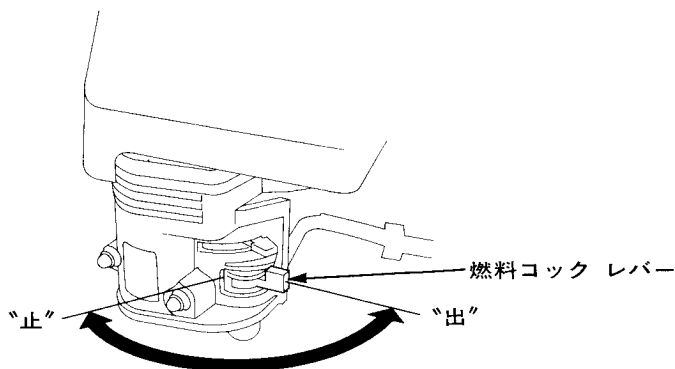
## エンジン スイッチ

エンジン スイッチは、エンジンの運転、停止をするときに操作します。



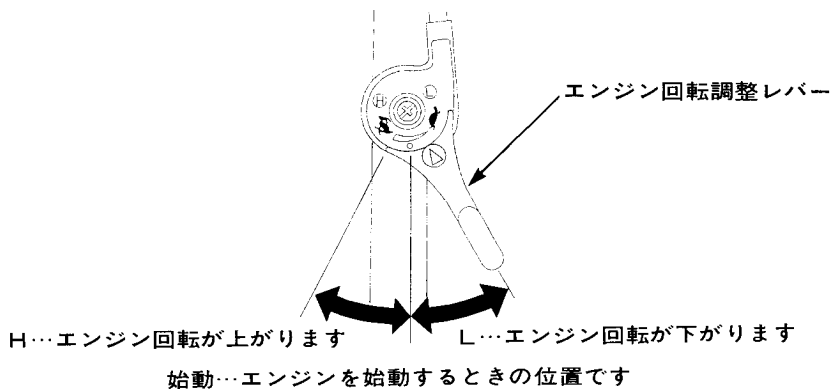
## 燃料コック レバー

燃料コック レバーは、タンクのガソリンを出したり止めたりするときに操作します。



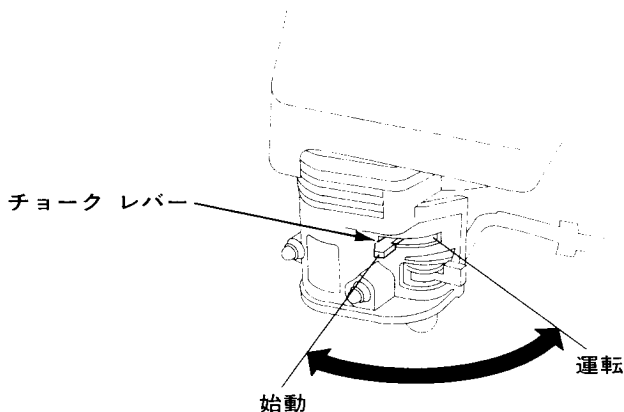
## エンジン回転調整レバー

エンジン回転を調整するものです。  
エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



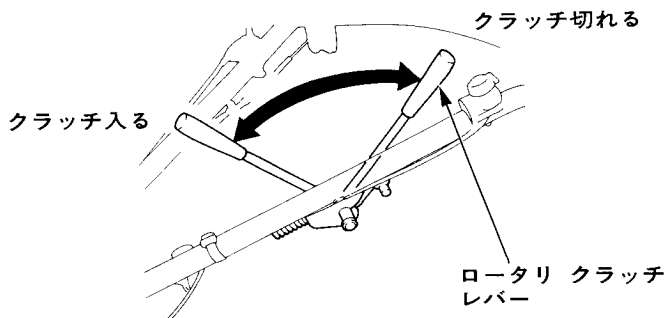
## チョーク レバー

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。



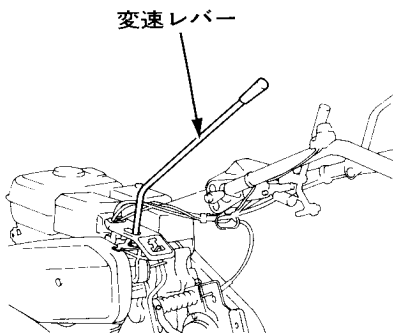
## ロータリ クラッチ レバー

ロータリ クラッチは、ロータリへの動力を断接する装置です。  
ロータリ クラッチ レバーを手前に引くと動力が切れ、前方に倒すと  
動力が伝わります。



## 変速レバー

本機の速度を変えるときに操作します。変速は前進 3 段、後進 1 段で  
す。



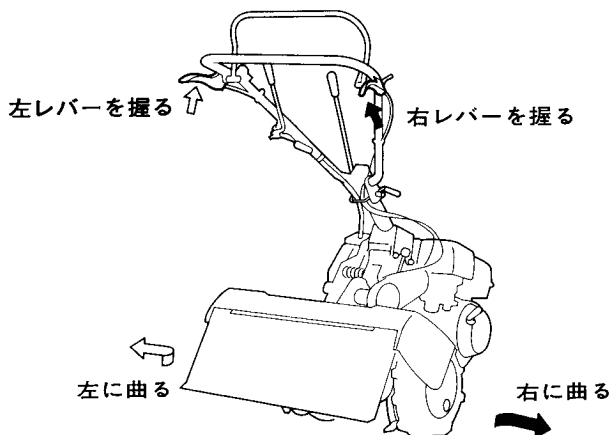
## サイド クラッチ レバー(FU600LHタイプ、FU800)

方向を変えるときに使います。

レバーを握ると握った方向に曲ります。

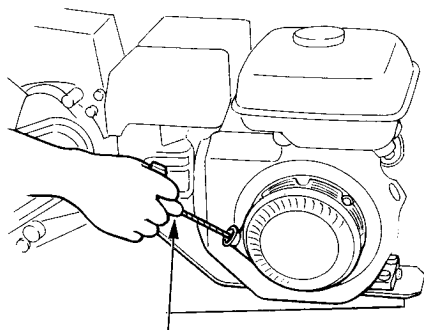
右レバーを握る…右に曲ります。

左レバーを握る…左に曲ります。



## 始動グリップ

エンジンを始動するときに操作します。

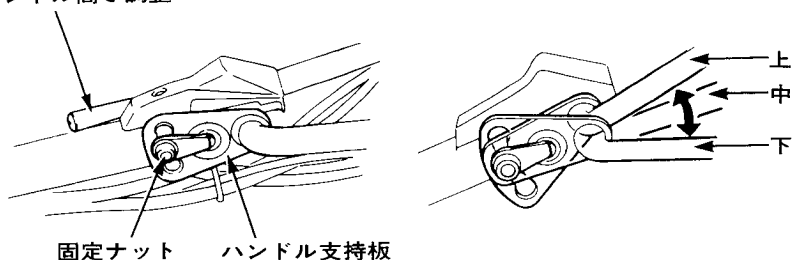


始動グリップ

## ハンドル高さ調整レバー

ハンドルの高さを、作業内容、運転者の身長に合わせるレバーです。  
高さは上中下3段階に調整できます。(30頁参照)

### ハンドル高さ調整レバー

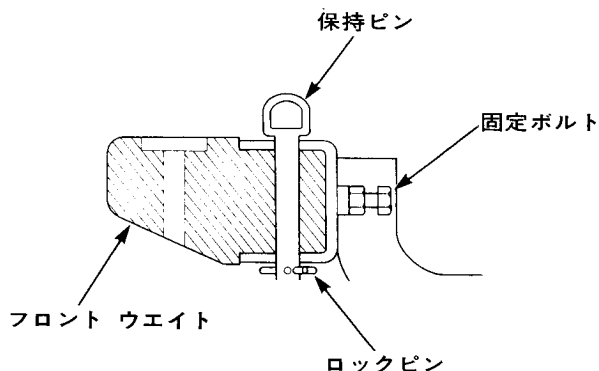


## フロント ウェイト

作業内容に応じて本機重量の増減に使用します。重量8.5kg  
《取付けた》

図のようにフロント ウェイトを保持ピンで取付け、左右の固定ボルトで固定します。

FU600：標準部品 FU800：別売部品



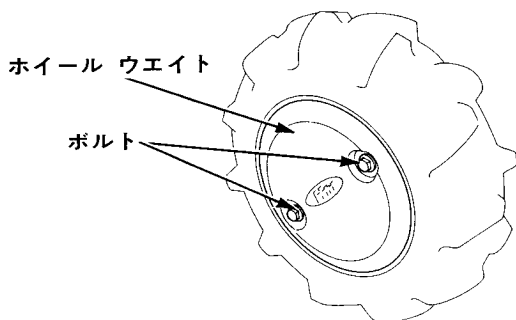
## ホイール ウェイト

作業内容に応じて本機重量の増減に使用します。

取付けは、ボルト、ナットで行います。 重量：10kg×2

ボルト、ナットは運転中にゆるまないように確実に締付けてください。

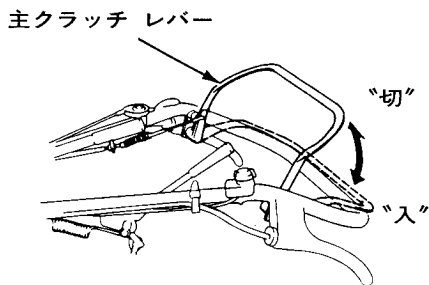
FU600：別売部品 FU800：標準部品



## 主クラッチ レバー

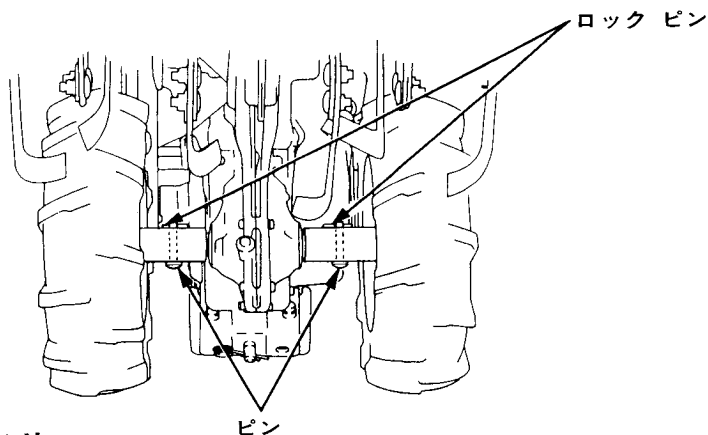
主クラッチは、車両への動力を断接する装置です。

主クラッチ レバーを放すと動力が切れ、握ると動力が伝わります。



## 車輪取付けピン

車輪の取付け、取外しを行うときに取扱います。(66頁参照)

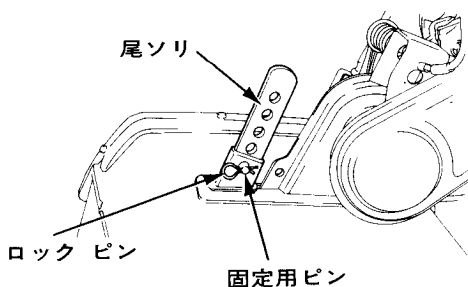


## 尾ソリ

固定用ピンを差しかえて、尾ソリを上下させて耕うん深さを調節します。(調節のしかた42頁参照)

尾ソリを引き上げる…耕深が深くなる

尾ソリを押し下げる…耕深が浅くなる



# 作業前に点検調整しましょう

## ⚠ 警告

点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。不安定な場所やエンジンを始動したまま点検を行うと思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

## 作業前の点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行ってください。

- 本機のまわり……………・ 燃料の量(22頁参照)、オイルの量(24、26、28頁参照)は規定量入っていますか。
  - ・ 燃料の漏れ、オイルの漏れはないですか。
  - ・ エンジン廻りのゴミ、ワラ等の付着はないですか。
- レバーの作動……………・ レバーの遊び量(57～60頁参照)は規定とおりですか。
  - ・ 引っかかりはないですか。
  - ・ スムーズに作動しますか。
- タイヤの空気圧……………・ タイヤの空気圧は適正ですか。(25頁参照)
- 各部の締付け……………・ ハンドル高さ調整レバーなどにゆるみ、がたはないですか。
  - ・ ボルト、ナットにゆるみはないですか。
- 配線、ケーブル類……………・ 被覆のやぶれ、切れはないですか。
  - ・ 配線、ケーブルのはさまりはなく、配線が断線していないですか。
- エンジンの始動、停止…・ エンジンを始動し、異音はないですか。(始動手順は31～35頁参照)
  - ・ エンジン スイッチで確実に停止しますか。(停止手順は45～47頁参照)
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。

## ガソリンの点検

### ⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

ガソリンを補給するときは

- ・エンジンを停止してください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを、負うおそれがあります。

本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。

- ・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取ってください。

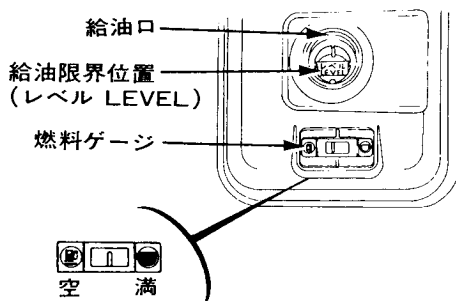
ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分注意して処分してください。

- ・燃料は注入口の口元まで入れず所定の給油限界位置を超えないように補給してください。入れすぎると燃料給油キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。
- ・傾斜地では本機がかたむき燃料がにじみ出ることがあります。燃料の量はタンクの半分以下を目安にしてください。

### 点検

燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置(レベル)までガソリンがあるか点検します。少ない場合は給油限界位置を超えないように補給してください。

燃料ゲージの確認をするときは必ず本機を水平に保ってください。



## 補給

使用ガソリン：無鉛レギュラー ガソリン

- 燃料給油キャップを外し、給油口の給油限界位置を超えないように補給してください。
- 燃料給油キャップは補給後、完全にはめ込み右方向に止まるまでいっぱいにまわしてください。
- 給油限界位置以上では本機が傾斜したときに燃料給油キャップからガソリンが漏れることがあります。

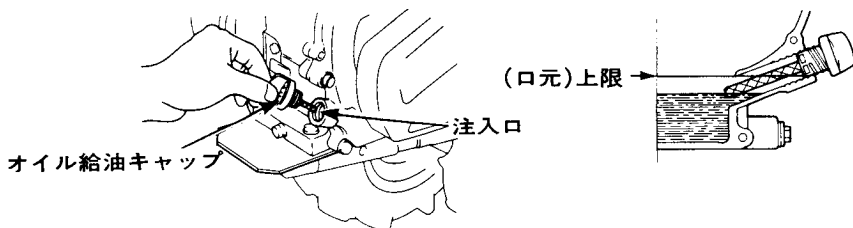
### 取扱いのポイント

- ・ 必ず無鉛レギュラー ガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
- ・ 軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。

## エンジン オイルの点検

### 点検

エンジンを水平にしオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。



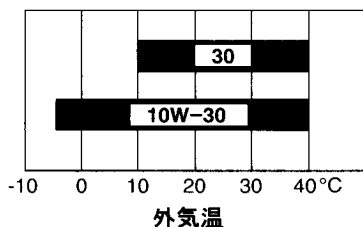
### 補給

- 少ないときは新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は49、50頁参照)補給後、オイル給油キャップを確実に締付けてください。
- 推奨オイル：(4サイクル ガソリン エンジン オイル)

Honda 純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30)

またはAPI 分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



エンジン オイル量：FU600：0.6 ℓ

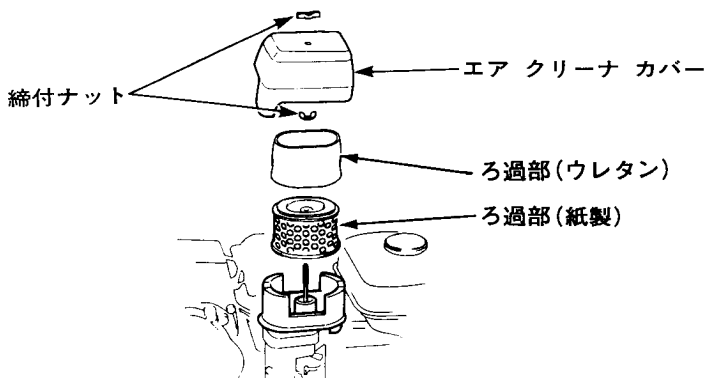
FU800：1.1 ℓ

### 取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

## エア クリーナ(空気清浄器)の点検

エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン・紙製)が汚れていないか点検します。汚れている場合は清掃してください。  
(清掃時期、方法は52頁参照)



## タイヤ空気圧の点検

### 点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高すぎるとけん引力が不足し、低すぎるとタイヤの寿命を短くします。

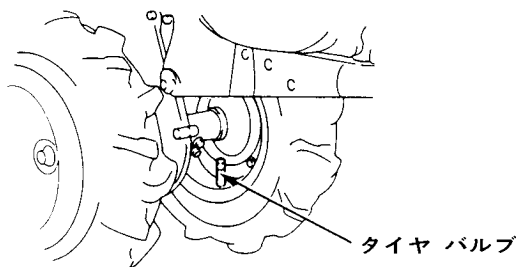
空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

### 調整

バルブ キャップを外し、タイヤ バルブより空気を注入、または抜いて調整します。

**タイヤ サイズ : 3.5-7**

**標準空気圧 : 118 kPa (1.2 kgf/cm<sup>2</sup>)**



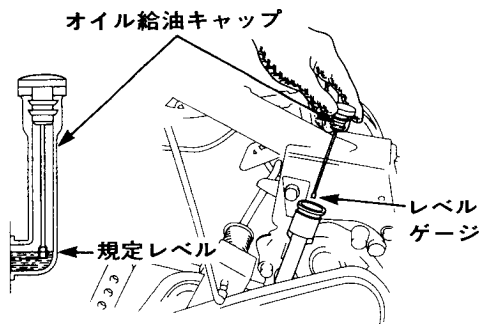
## 変速機オイルの点検

### 点検

オイル レベルの確認は、レベルゲージのオイルをふきとり、再度オイル給油キャップを押し込んで、給油キャップのレベルゲージの先端にオイルがつく（規定レベル）か点検します。すくない場合は補給してください。

### 補給

- 少ないときは新しいオイルを補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は51頁参照）補給後、オイル給油キャップを確実に押込んでください。



- 推奨オイル：（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda 純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）

またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30 オイルをご使用ください。

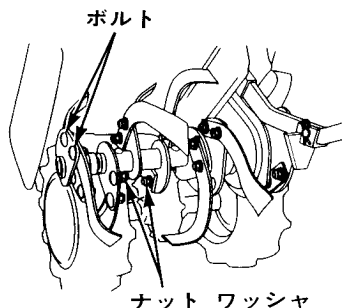
オイル量：2.4ℓ

## ロータリ爪の点検

### 取扱いのポイント

ロータリ爪の点検を行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

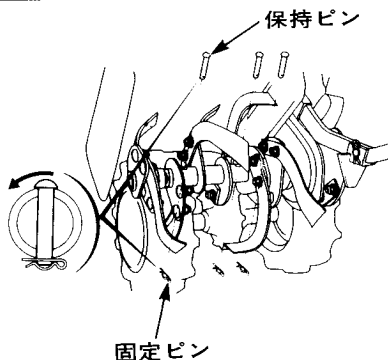
ロータリ爪の損傷、曲がり、ゆるみがないか点検してください。もし異常があったときは締付け、または交換してください。交換方法は67頁を参照してください。



ロータリ爪軸の保持ピンに脱落、変形がないか点検してください。必要であれば新しい保持ピンと固定ピンを取付けてください。

### 取扱いのポイント

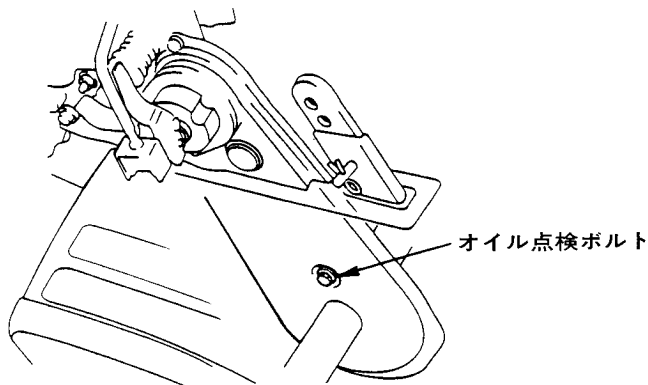
- ・ロータリ爪はHonda純正部品を使用してください。
- ・ピン抜け防止のためロータリ回転方向と逆方向から固定ピンを差し込んでください。



## ロータリ オイルの点検

ロータリ爪を着地させ、オイル点検ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるか点検します。すくない場合は補給してください。

- ・ エンジンを停止し、ロータリが停止したことを確認後行ってください。



### 補給

新しいエンジン オイル

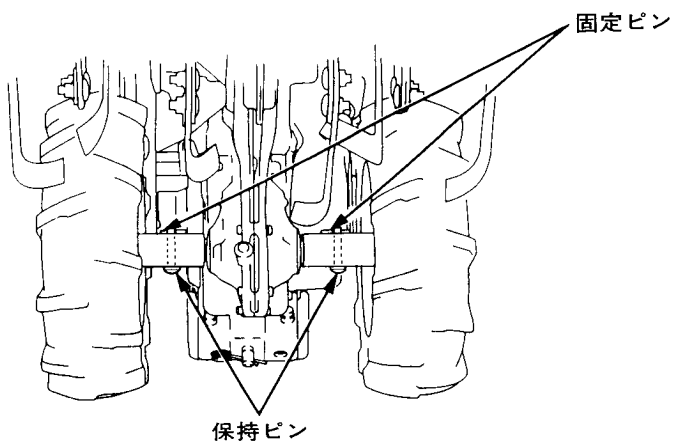
**オイル量：0.35 l**

- ・ 給油キャップを外して、オイル点検ボルトからオイルがにじみ出てくるまで補給してください。



## 車軸取付けピンの点検

保持ピン、固定ピンが確実に取付けられているか点検します。



## ハンドル高さの調整

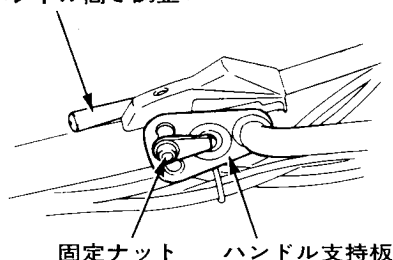
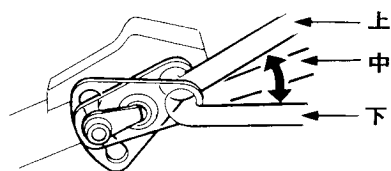
ハンドル高さ調整レバーをゆるめ、作業しやすい位置にハンドルの高さを調整してください。

高さは上中下3段階に調整できます。

### 《調整のしかた》

調整レバーを5～6回まわしてゆるめ、適当な穴(3箇所)を選んでねじ込みレバーを固定します。

ハンドル高さ調整レバー



### 取扱いのポイント

調整後はレバーを十分に締付けてください。

## ロータリ バック牽制の点検

始動前にエンジンを停止した状態で、次の点検を行ってください。

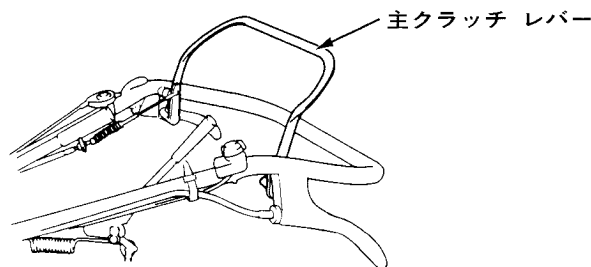
1. 変速レバーをRに入れると、ロータリ クラッチ レバーが重くなること、ロータリ クラッチ レバーを“入”の位置にし、本機を押し引きしてロータリがまわらないことを確認します。
2. ロータリ クラッチ レバーを“入”の位置にして、変速レバーがRに入らないことを確認します。

異常がある場合は、お買いあげ販売店へお申しつけください。

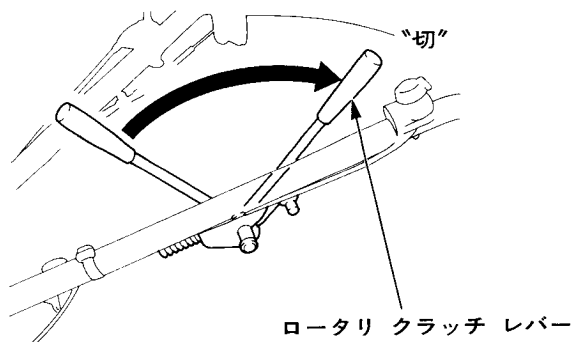
## ⚠警告

- ・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内でエンジンを始動するときは換気に十分注意してください。ガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- ・エンジンは平坦な場所で始動してください。転倒などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ・周りで作業をしている人がいたら周りの人に合図をしてから、始動してください。本機とぶつかるなどでケガをするおそれがあります。
- ・マフラの排気方向に燃えやすいものがないか確認してから、始動してください。火災の原因になることがあります。
- ・主クラッチ レバー、ロータリ クラッチ レバーが「切」、変速レバーが「中立」になっていることを確認してからエンジンをかけてください。クラッチ、変速が入っているとロータリが回転したり、急発進などにより思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

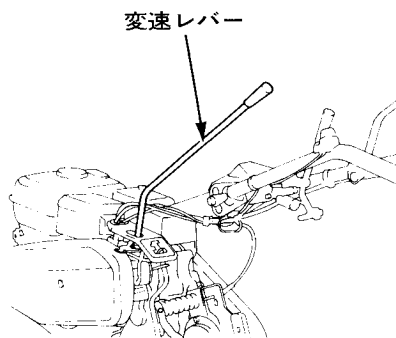
1. 主クラッチ レバーが「切」になっていることを確認してください。



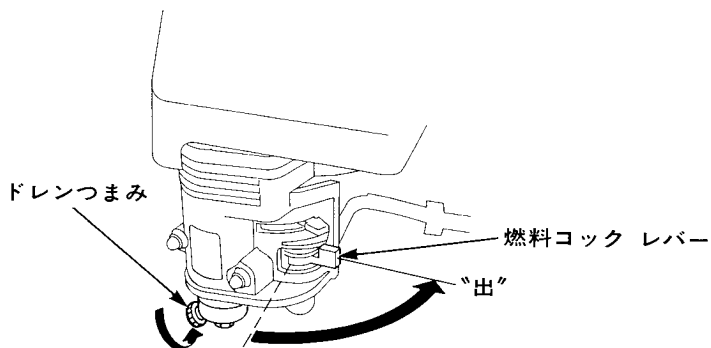
2. ロータリ クラッチ レバーが“切”になっていることを確認してください。



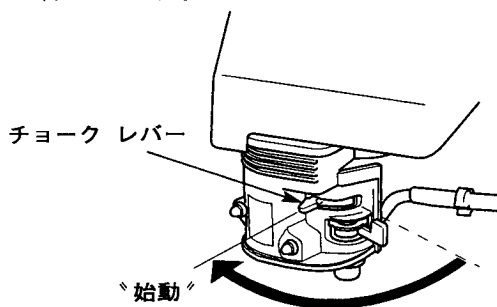
3. 変速レバーが“中立”になっていることを確認してください。



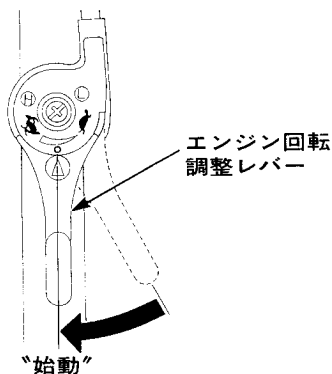
4. 燃料コック レバーを“出”に合わせます。ドレンつまみが確実にしまっているか確認してください。



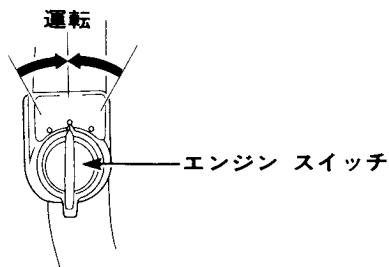
5. 寒いときやエンジンがかかりにくいときには、チョーク レバーを“始動”に合わせます。



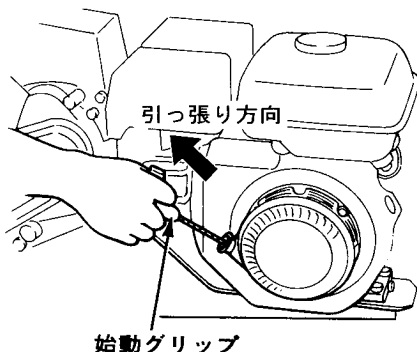
6. エンジン回転調整レバーを“始動”の位置に合わせます。



7. エンジン スイッチを「運転」にします。



8. 始動グリップを引き重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



#### ⚠ 注意

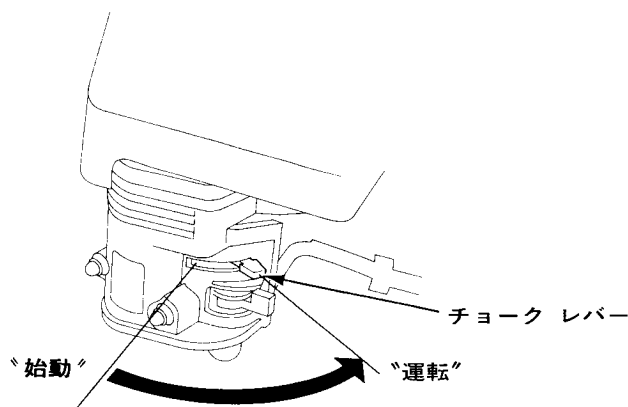
始動グリップを引くときは、引っ張る方向に人や障害物が無いか確認してから行ってください。ケガをするおそれがあります。

#### 取扱いのポイント

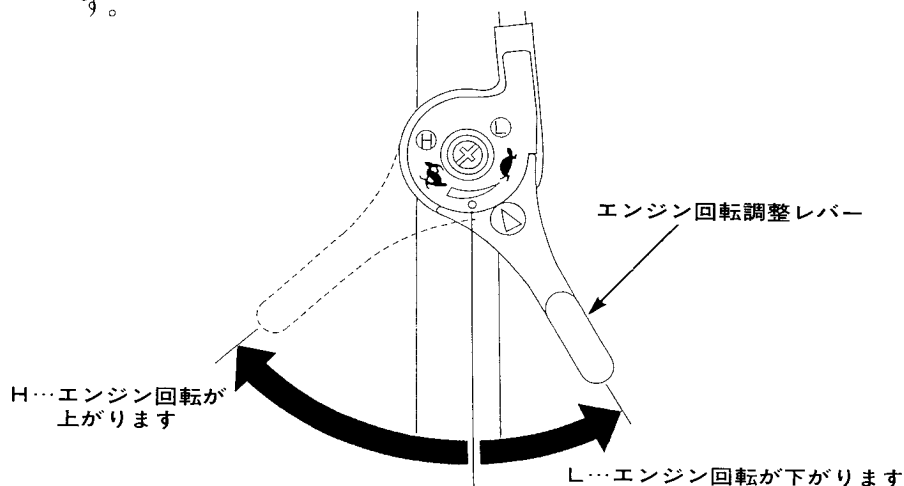
- ・ 始動グリップを引いたあと急に手を放さないでゆっくり放してください。始動装置や周りの部品を破損することがあります。
- ・ 運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

9. エンジンが始動します。

10. 2～3分間暖機運転を行います。チョークレバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”の方向に戻します。



11. エンジン回転調整レバーを調整して、適切なエンジン回転にします。



安全な作業を行うために、作業をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目をよくお読みになり十分に理解して行ってください。

## 取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお問い合わせください。

## 変速

### ●変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。(37頁参照)

速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

### 変速の要領

- 1) 変速レバーは必ず主クラッチを切ってから操作します。
- 2) 変速レバーが作動しにくいときにはいったん“N”(中立)に戻し、主クラッチを入れて少し動かし、主クラッチを切りもう一度操作します。
- 3) 後進の場合、特に足元や後方に十分注意し低速で運転します。

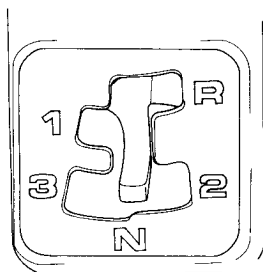
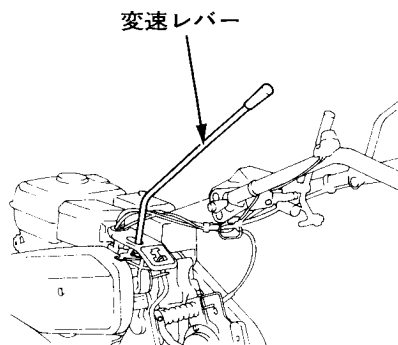
## △警告

後進時、ハンドルがはね上り爪にふれると死傷するおそれがあるので後進するときは次の指示に従ってください。

- ・後方に人や障害物がないことを確認してください。
- ・エンジン回転を下げてください。
- ・ハンドルを両手で持って、しっかりささえてください。
- ・クラッチはゆっくりつなぎ、いつでも切れる様にしてください。

## 取扱いのポイント

ロータリ クラッチが“入”の位置にある場合は変速レバーは後進に入らない(ロータリ バック牽制)機構になっています。



変速表

| 変速位置 | 車軸回転数 (rpm) |       | 適 応 作 業                     |
|------|-------------|-------|-----------------------------|
|      | FU600       | FU800 |                             |
| 1    | 10.5        | 9.9   | 耕うん、培土、移動、トラックへの積み込み、ほ場への出入 |
| 2    | 25.2        | 23.8  | 耕うん、培土、移動                   |
| 3    | 59.7        | 56.4  | 移動(作業禁止)                    |
| R    | 12.6        | 11.9  | 移動、トラックへの積み降し、ほ場への出入        |

## 運転

### ●主クラッチ レバー

主クラッチ レバーを操作することにより、本機の走行及び停止を行います。

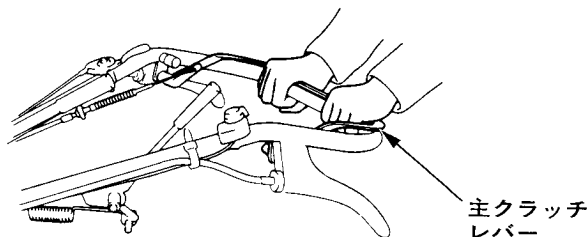
#### ⚠注意

本機の操作を行うときは、ハンドル後方中央に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。バランスをくずし、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

#### 《走行》

レバーを握る……・本機が走行します。

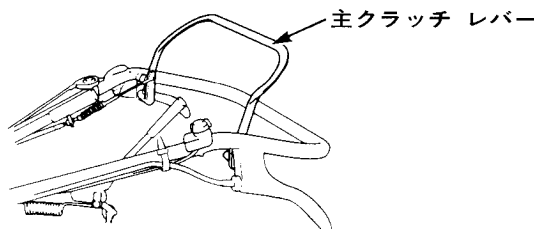
- ・作業するときには、ロータリ クラッチ レバーを“入”にして主クラッチ レバーを握ります。本機が走行しロータリが回転します。



#### 《停止》

レバーを放す……・本機が停止します。

- ・ロータリが停止します。



#### 取扱いのポイント

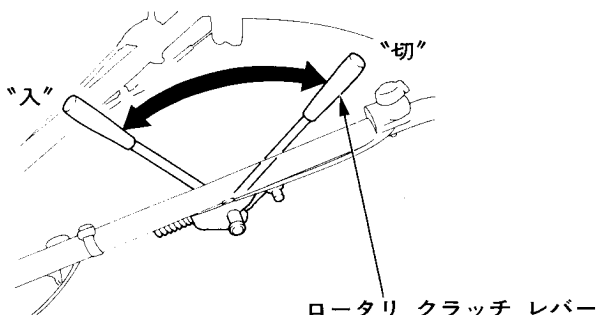
主クラッチ レバーの操作は、静か(スムーズ)に行ってください。エンジン回転も低くしておきます。急激な操作を行うと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりすることがあります。

## ●ロータリ クラッチ レバー

ロータリ クラッチの操作は、主クラッチを“切”の状態で行ってください。

レバーを手前に引くークラッチ“切”ー動力切れる。

レバーを前方に倒すークラッチ“入”ー動力伝わる。

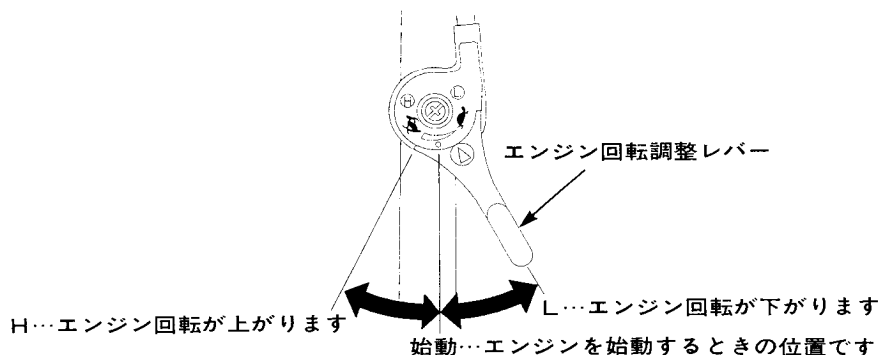


### 取扱いのポイント

ロータリ クラッチ レバーの操作を行うときは、必ず主クラッチ レバーを“切”にしてください。主クラッチが“入”の状態では、ギヤ鳴き、ロータリ クラッチの切れ不良、ギヤの破損につながります。

## ●エンジン回転調整レバー

エンジンの回転数を作業に応じて設定してください。



## 旋回

### ●サイド クラッチ レバー(FU600LH、FU800)

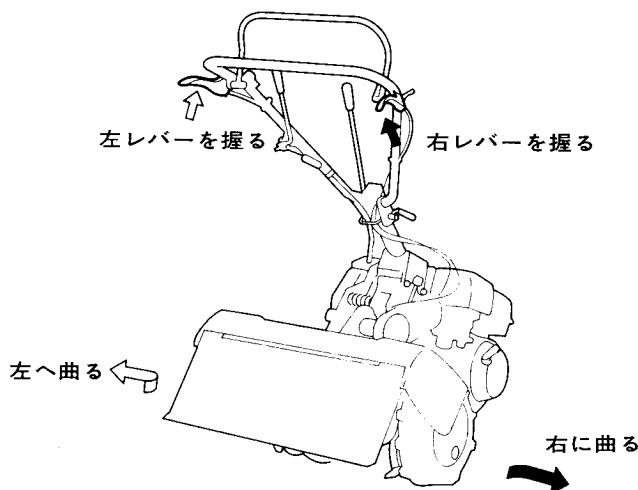
#### ⚠警告

- ・高速運転時、サイド クラッチ レバーを操作しないでください。  
高速時操作すると、本機が急旋回し走行が不安定となり、傷害事故をおこすおそれがあります。
- ・登り坂、下り坂ではサイド クラッチ レバーを操作しないでください。  
登り坂、下り坂でサイド クラッチ レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したりし、事故、けが、本機の故障をまねくおそれがあります。

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

右レバーを握る…右に曲がります。

左レバーを握る…左に曲がります。



## 耕うん作業

### 硬い場所の耕うん

- ・尾ソリは一杯に下げて作業してください。
- ・一度に深く耕うんしないで2～3回掛けしてください。無理にハンドルを押しつけないでください。
- ・一度に深く耕やすと本機が急に前に飛び出すことがあります。
- ・抵抗羽根は必ず取付けて耕うんしてください。

### 旋回

主クラッチとロータリ クラッチを切り、エンジン回転を低速にします。主クラッチ レバーを握り、操向クラッチ レバー付は操向クラッチ レバーを握ってゆっくりと旋回してください。

### 軟らかい場所の耕うん

特に軟らかいほ場では、牽引力が不足し前進1速で前に進まないことがあります。その場合には前進2速で耕うんするか、抵抗羽根を付けかえて耕うんしてください。

但し、運転、取扱いになれるまでは前進1速で耕うんし、前に進みにくい場合は、ハンドルを少し持ち上げて耕うんしてください。

### △注意

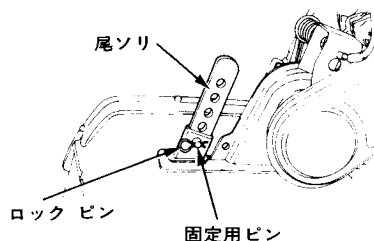
ロータリの付けかえや尾ソリ及び抵抗羽根の調整は主クラッチ レバーとロータリ クラッチ レバーを“切”の位置にし、エンジンを停止して、本機とロータリ爪が完全に停止した状態で行ってください。

## ●尾ソリ

耕うん深さは固定用ピンを外し、尾ソリを上下に移動することによって調整します。

### 《調整のしかた》

抵抗棒を引き上げる…耕深が深くなる  
抵抗棒を押し下げる…耕深が浅くなる  
耕うん深さに合わせ、尾ソリの固定用ピン穴を合わせてピンを差し込み、ロックピンで固定します。

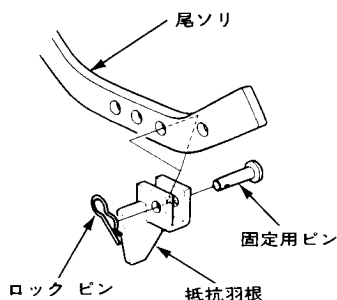


## ●抵抗羽根

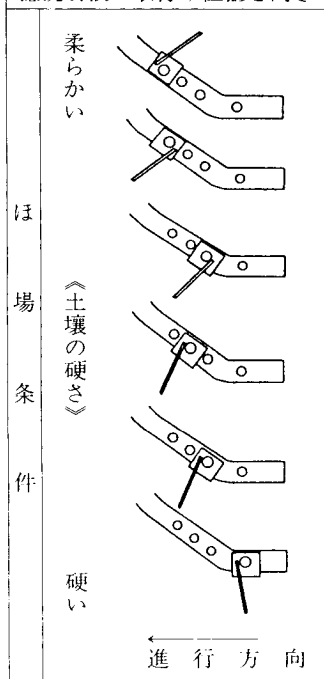
ほ場の硬さにより、本機が進まない又は、耕うんできない場合は、抵抗羽根で調整します。

### 《調整のしかた》

抵抗羽根の位置と向きを決め、固定用ピンで抵抗羽根を取付け、ロックピンで抜け止めをします。



抵抗羽根の取付け位置と向き



## 取扱いのポイント

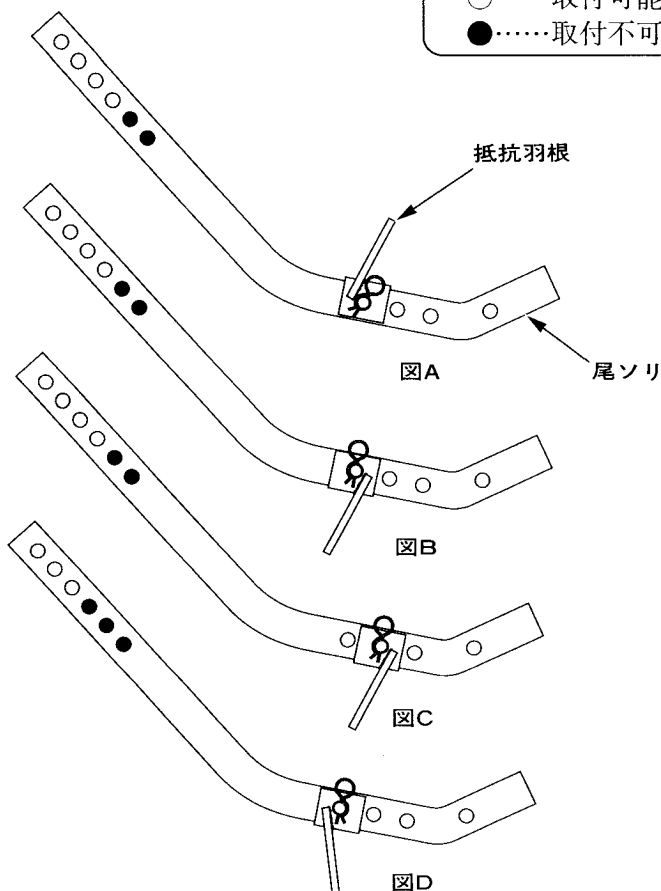
抵抗羽根が図A—Dの取付け状態のときは、尾ソリの調整を図に示した位置に取付けないでください。

ロータリ爪と抵抗羽根が干渉します。

### 尾ソリの調整位置

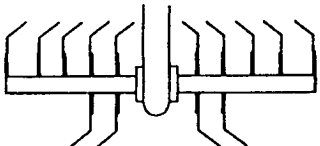
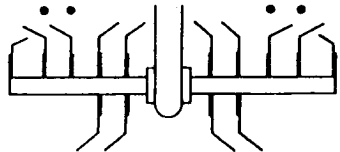
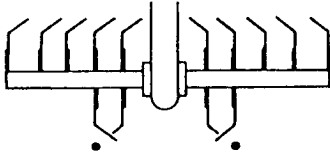
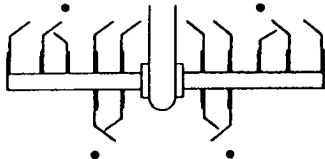
○……取付可能

●……取付不可



## ●ロータリ爪配列

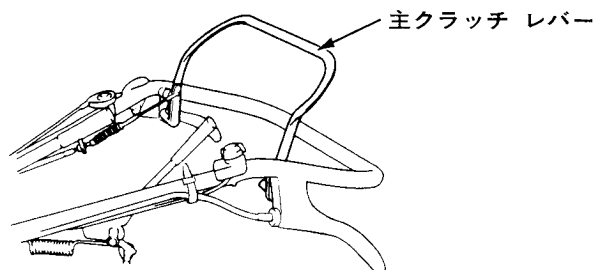
ロータリの爪配列(爪の向き)は作業内容に応じて工夫すると効率のよい作業ができます。下記は標準的な例です。作業の目安にしてください。

| 作 業 内 容                  | 使用アタッチメント | ロ ー タ リ 爪 配 列                                                                                                     |
|--------------------------|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一般耕うん                    | _____     |  <p>平面耕<br/>(外向き爪は黄色のペイント位置)</p> |
| 溝切り<br>畦立                | 培土器       |  <p>外盛耕</p>                      |
| 幅広<br>畦立                 | _____     |  <p>内盛耕</p>                      |
| 石コロの多いほ場,<br>爪軸に石が噛み込む場合 | _____     |  <p>内盛耕</p>                    |

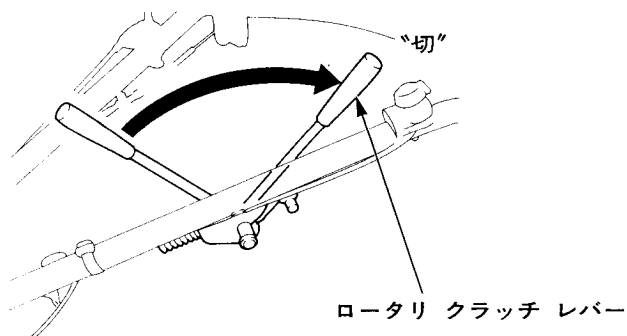
\* ●印は平面耕と向きの異なる爪

ロータリ爪の取付けは67頁を参照してください。

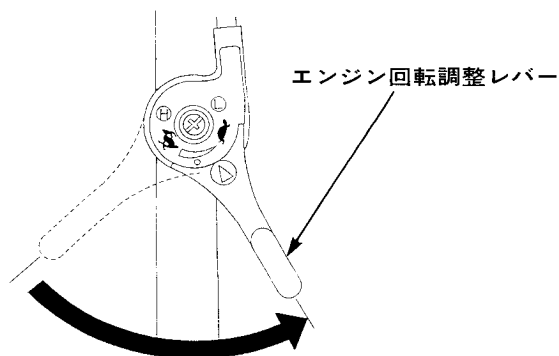
1. 主クラッチ レバーを放し、変速レバーを“N”(中立)にします。



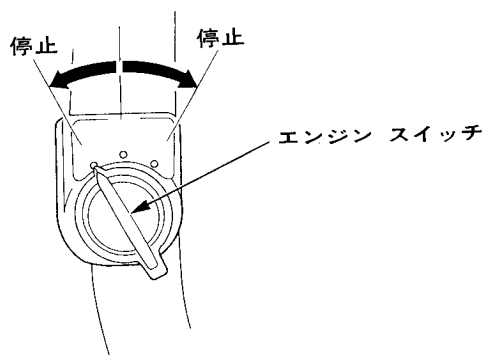
2. ロータリ クラッチ レバーを“切”にします。



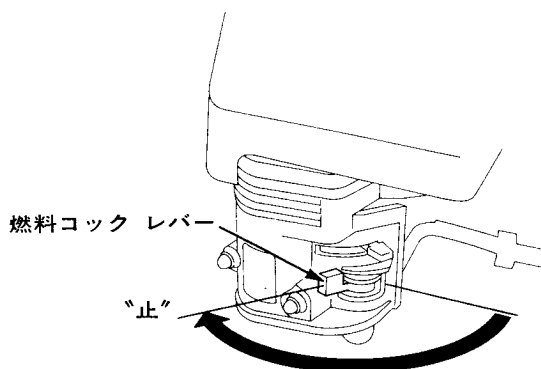
3. エンジン回転調整レバーを“L”の方向に戻し、エンジン回転を下げます。



4. エンジン スイッチを“停止”にします。



5. 燃料コック レバーを“止”に合わせます。



# 定期手入れを行いましょう

## 定期点検

お買いあげいただきました本機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう

| 点検時期 (2)       |       | 作業前<br>点検        | 1ヶ月目<br>または<br>初回20時間<br>運転目 | 3ヶ月毎<br>または<br>50時間<br>運転毎 | 6ヶ月毎<br>または<br>100時間<br>運転毎 | 1年毎<br>または<br>300時間<br>運転毎 |
|----------------|-------|------------------|------------------------------|----------------------------|-----------------------------|----------------------------|
| 点検項目           |       |                  |                              |                            |                             |                            |
| エンジン オイル       | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
|                | 交換    |                  | ○                            |                            | ○                           |                            |
| 本機の周り          | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| レバーの作動         | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| 各部の締付け         | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| タイヤ空気圧         | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| 車軸取付けピン        | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| 配線、ケーブル類       | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| エンジンの作動        | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| 変速機オイル         | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| ロータリ オイル       | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
| エア クリーナ        | 点検    | ○                |                              |                            |                             |                            |
|                | 清掃    |                  |                              | ○ (1)                      |                             |                            |
|                | 交換    |                  |                              |                            |                             | ○                          |
| チェーンケース        | グリス塗布 |                  |                              | ○                          |                             |                            |
| チェーン           |       |                  |                              |                            |                             |                            |
| 駆動ベルト          | 調整    |                  | ○ (3) (5)                    |                            | ○ (3) (5)                   |                            |
| 主クラッチ ケーブル     | 調整    |                  | ○                            |                            | ○                           |                            |
| ロータリ クラッチ ケーブル | 調整    |                  | ○                            |                            | ○                           |                            |
| サイド クラッチ ケーブル  | 調整    |                  |                              |                            |                             | ○                          |
| 燃料ろ過カップ        | 清掃    |                  |                              |                            | ○                           |                            |
| アイドル回転         | 点検 調整 |                  |                              |                            |                             | ○ (3)                      |
| 点火プラグ          | 点検 調整 |                  |                              |                            | ○                           |                            |
|                | 交換    |                  |                              |                            |                             | ○                          |
| 吸入、排気弁隙間       | 点検 調整 |                  |                              | ○ (3)                      |                             |                            |
| 燃焼室            | 清掃    | 500時間運転毎 (3) (4) |                              |                            |                             |                            |
| 燃料タンク、燃料フィルタ   | 清掃    |                  |                              |                            | ○ (3)                       |                            |
| エンジン回転調整ケーブル   | 調整    |                  |                              |                            |                             | ○                          |
| 燃料チューブ         | 点検    | 2年毎 (必要なら交換) (3) |                              |                            |                             |                            |

- (1) ホコリの多い所で使用した場合は、エア クリーナの清掃は10時間運転毎または1日1回行なってください。
- (2) 点検時期は表示の期間または運転時間毎どちらか早い方で実施してください。
- (3) これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
- (4) 表示時間経過がすみやかに実施してください。
- (5) ベルトに亀裂、異常磨耗が入っていないことを確認し、異常がある場合は交換してください。

### ⚠ 警告

点検、整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ キャップを取外して行ってください。

## エンジン オイルの交換

### ⚠ 注意

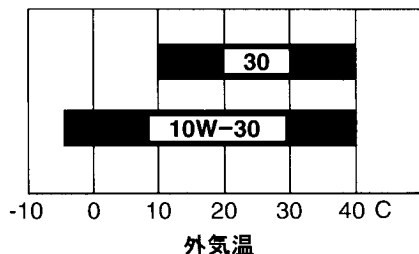
エンジン停止直後はエンジン本体やマフラなどの温度、また油温も高くなっていますので冷えてから行ってください。やけどをするおそれがあります。

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》 初回：1ヶ月目または、20時間運転目、  
以後：100時間運転毎。  
また、稼働期前には必ず交換してください。

《推奨オイル》 (4サイクル ガソリン エンジン オイル)  
Honda純正ウルトラU汎用 (SAE10W-30)  
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

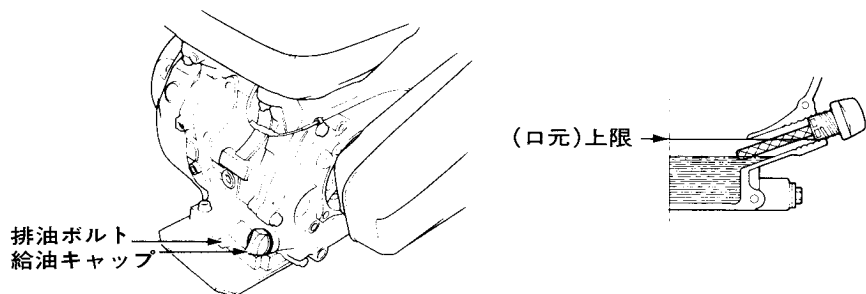
エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



《エンジン オイル量》 FU600：0.6ℓ  
FU800：1.1ℓ

## 交換のしかた

1. エンジンを水平にしてオイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新品のシーリング ワッシャを使いシリンダ バレルに確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように手で確実に締付けます。



### 取扱いのポイント

- ・ オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行いましょう。
  - ・ 必ずエンジンを水平にし、オイルを給油してください。
  - ・ 交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。
- 不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

## 変速機オイルの交換

変速機オイルが汚れていると変速機各部の摩耗を早めます。

### 《交換時期》

稼働期前に汚れ具合を確認し、汚れがひどいときには交換してください。

### 《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）

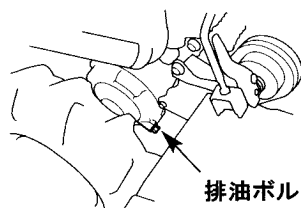
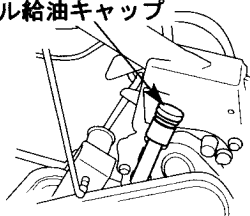
またはAPI 分類SE級以上のSAE10W-30 オイルをご使用ください。

### 《規定量》 2.4ℓ

### 交換のしかた

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、変速機に確実に締付けます。

オイル給油キャップ



排油ボルト

3. オイル給油キャップを差し込み、レベル ゲージの先端にオイルがつくまで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップを完全に押し込んでください。

### 取扱いのポイント

- ・オイル給油キャップは完全に押し込んでください。不完全だとオイルが漏れることがあります。
  - ・交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。
- 不明な場合は購入先にご相談のうえ処理してください。

## エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

エア クリーナが目詰まりをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

### ⚠警告

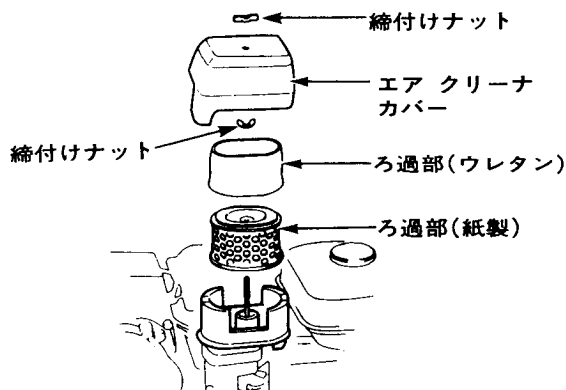
洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。

換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》 3ヶ月毎または、50時間運転毎

ホコリの多い場所で使用した場合は10時間毎または1日1回。

1. 締付けナットをゆるめ、図のようにエア クリーナ カバーを取り、ろ過部を取外します。
2. ろ過部(ウレタン)は洗い油または中性洗剤を水で薄めて洗い、よく絞って乾かします。オイルに浸した後固く絞ってから取付けます。
3. ろ過部(紙製)は内側から圧縮空気を吹きつけるか、または軽く叩いて汚れを落とします。汚れがひどい場合は交換してください。
4. 点検後はエア クリーナ カバーを確実に取付けたあと接続部がはずれていないか確認してください。



### 取扱いのポイント

- ・エア クリーナ カバーの締付けは確実に行ってください。締付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
- ・エア クリーナ カバーやろ過部(ウレタン)を装備しなかったり、取付け方が悪いと、エンジンに悪影響を与える原因になります。

## 点火プラグの点検、調整、交換

### ⚠注意

エンジン停止直後はマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています、やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、火花すき間が不適當ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検、調整時期》

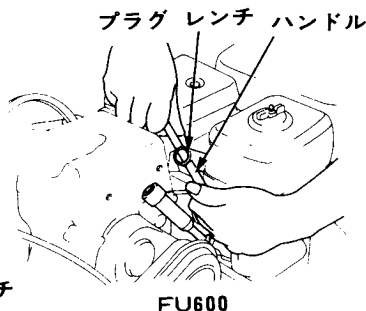
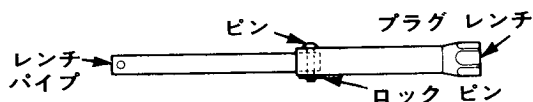
6ヶ月毎または、100時間運転毎

《交換時期》

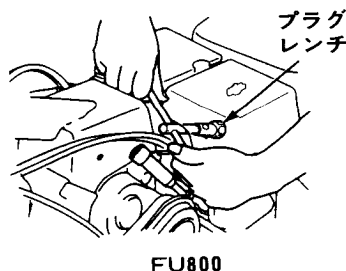
1年毎または、300時間運転毎

### 清掃のしかた

1. 点火プラグ キャップを外します。
2. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
  - ・FU800はレンチ パイプをピン、ロック ピンでプラグ レンチに継いで使用します。



3. 点火プラグを清掃します。プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。  
プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落としてください。



## 調整

4. 側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。

**火花すき間：0.7～0.8mm**

《標準プラグ》

BP5ES (NGK)

W16EP-U (DENSO)

側方電極



プラグすきま  
0.7～0.8mm

### 取扱いのポイント

- ・故障の原因となるので標準以外の点火プラグを使用しないでください。
- ・プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
- ・点検調整後は点火プラグキャップを確実に取付けてください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

## 燃料ろ過カップの清掃

### ⚠ 警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

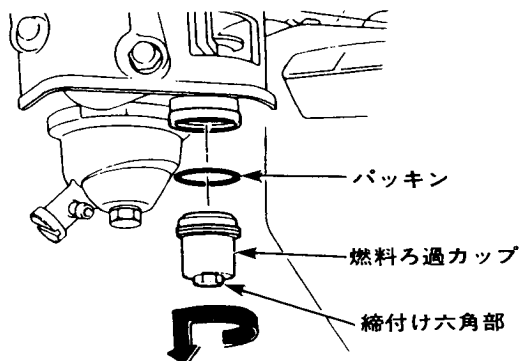
- ・火気を近づけないでください。
- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・燃料ろ過カップの取付け後、漏れがないか点検してください。
- ・ガソリンが廻りに付いている場合は良くふき取り完全にかわかしからエンジンを始動してください。

燃料ろ過カップ内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》 6ヶ月毎または、100時間運転毎

### 清掃

1. 燃料コック レバーを“止”にします。
2. 燃料ろ過カップの締付け六角部をゆるめ取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗い油でよく洗い底にたまったゴミや水を取除きます。
4. 清掃後、ガソリン漏れのないようパッキンを元どおりに取付け、締付け六角部を確実に締付けてください。
5. 燃料コック レバーを“出”にし燃料の漏れのないことを確認します。



## 主クラッチ ケーブルの調整

主クラッチ ケーブルの調整が完全でないと主クラッチの切れが悪くなったり駆動ベルトがすべったりします。

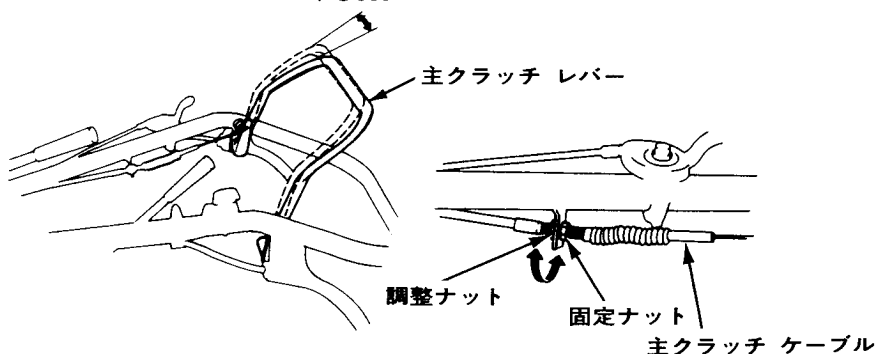
《調整時期》 初回：1ヶ月目または、20時間運転目、以後：6ヶ月毎または、100時間運転毎

### 調整

1. 主クラッチ レバーが“切”の位置で、レバー先端の遊びが下図の範囲になっているか確認します。
2. 調整は固定ナットをゆるめ、調整ナットで行います。

遊び：FU 600：25—30mm

FU 800：5—10mm



3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

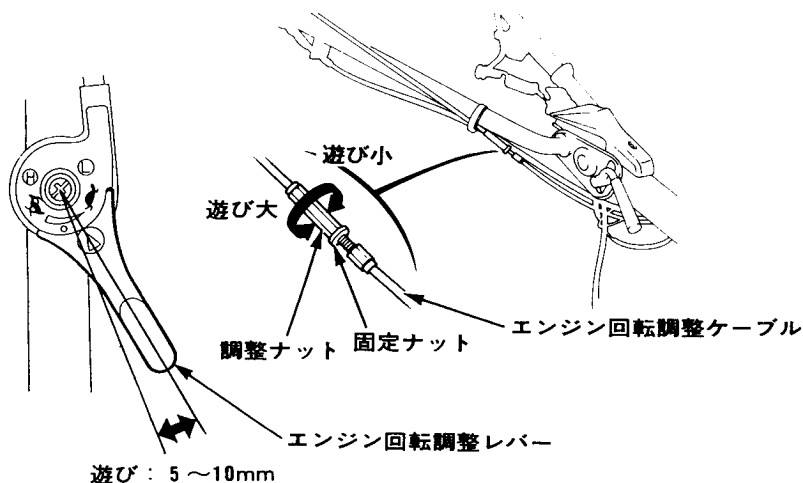
## エンジン回転調整ケーブルの調整

エンジン回転調整ケーブルの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》 1年毎または、300時間運転毎

### 調整

1. エンジン回転調整レバーが“L”の位置の遊びが、先端で5～10 mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめて調整ナットをまわして行ってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



## ロータリ クラッチ ケーブルの調整

ロータリ クラッチ ケーブルが正しく調整されていないとクラッチの切れが悪くなります。

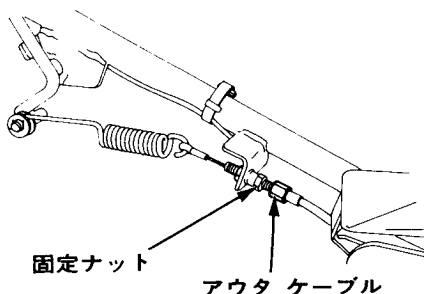
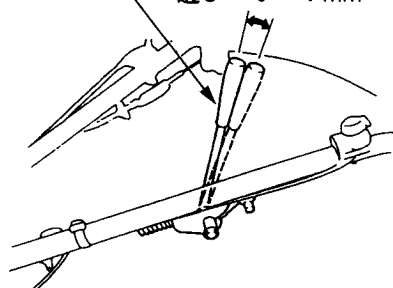
《調整時期》 初回：1ヶ月目または、20時間運転目、以後：6ヶ月毎または、100時間運転毎

### 調整

1. ロータリ クラッチ レバーを手前に戻したとき、クラッチ“切”の状態ではレバー先端の遊びが0～1mmになるように調整します。
2. 調整は固定ナットをゆるめアウト ケーブルを前後に移動させて行います。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

ロータリ クラッチ レバー

遊び：0～1mm



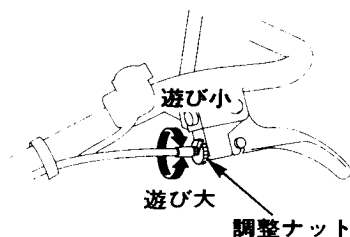
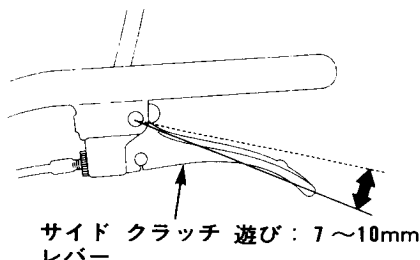
## サイド クラッチ ケーブルの調整(FU600LHタイプ、FU800)

サイド クラッチ ケーブルの調整が完全でないとサイド クラッチの切れが悪くなります。

《調整時期》 1年毎または、300時間運転毎

### 調整

1. サイド クラッチ レバーの遊びがレバー先端で7～10 mmになるように、左右同じ要領で調整します。
2. 調整は、調整ナットをまわして行います。



## 駆動ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

### △注意

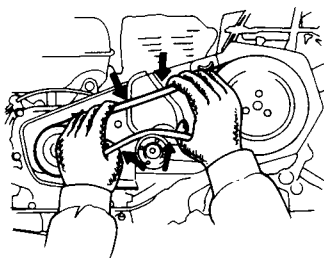
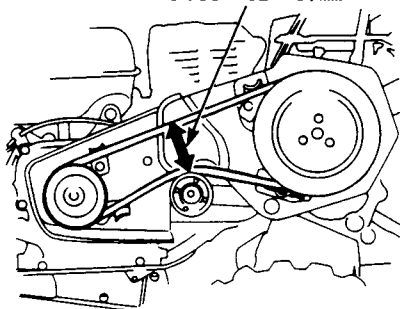
調整後は、ボルトは確実に締付けてください。ボルトがゆるみエンジンが脱落しておもわぬ事故が発生するおそれがあります。

《調整時期》 初回：1ヶ月目または、20時間運転目、以後：6ヶ月毎または、100時間運転毎

### 点検

1. ベルト カバーを除外します。
2. ベルトのすき間及びストッパーのすき間の調整はエンジンを“停止”させ点火プラグ キャップを外し、主クラッチ レバーを“入”にした状態で下図の様に上下ベルトを両手で5～6回つまんでベルトとプーリをなじませてから規定の寸法になるか、点検します。
  - ・ ベルト間隔：FU600：65～70mm  
FU800：52～57mm
  - ・ 指定ベルト：FU600：Vベルト バンド-レッドSII (SB-40)  
FU800：Vベルト バンド-W800L (SB-44)
3. 規定寸法外の場合は調整してください。

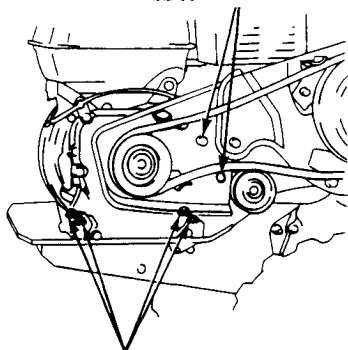
FU600：65—70mm  
FU800：52—57mm



## 調整

4. 主クラッチ ケーブルを調整します。(調整方法は57頁参照)
5. 調整はエンジン スティ締付け  
ボルト、エンジン締付けボルト  
をゆるめ、エンジンを前後に動  
かして行います。  
規定寸法よりせまい場合…エン  
ジンを前に動かします。  
規定寸法よりひろい場合…エン  
ジンを後に動かします。
6. 調整後、ボルトは確実に締付け  
てください。

エンジン スティ  
締付けボルト



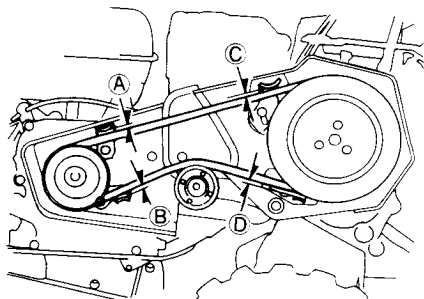
エンジン締め付けボルト

### 取扱いのポイント

調整時、エンジン側プーリの面と変速機側プーリの面が一直線になるように合わせてください。合っていないとベルト外れ及びベルトが早く傷みます。

7. 主クラッチ レバーを握った状態で、ベルトとベルト ストップの  
すき間(4ヶ所)が下表の寸法になるか点検します。

|   | FU800     | FU600     |
|---|-----------|-----------|
| Ⓐ | 1.0～3.0mm | 3.0～4.0mm |
| Ⓑ | 3.0～5.0mm | 2.0～4.0mm |
| Ⓒ | 1.0～3.0mm | 2.0～4.0mm |
| Ⓓ | 3.0～5.0mm | 3.0～5.0mm |



8. 規定寸法外の場合は調整してください。
9. 調整はストッパ締付けボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行います。
10. 調整後、ボルトは確実に締付けてください。
11. ベルト カバーを取付けます。

#### △注意

- ・ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると手や衣服を巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。
- ・指定されたベルトで正しく調整を行わないと主クラッチの切れが悪くなり思わぬ事故をまねくことがあります。

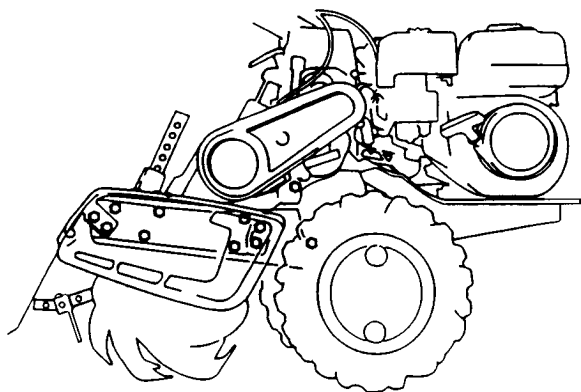
## ロータリ各部のゆるみの点検

各部のゆるみを点検してください。もしゆるんでいたら確実に締付けてください。

《点検時期》 春、秋のシーズン前

### 締付け個所

- ・ アップ チェーン ケースとロータリ ケース (3 本)
- ・ トランスミッションとロータリ フレーム (2 本)
- ・ ロータリ カバーとロータリ フレーム (4 本)
- ・ スイングベースとトランスミッション (2 本)



## ロータリ ドライブ チェーンのグリース塗布

ドライブ チェーンにグリースを塗布してください。

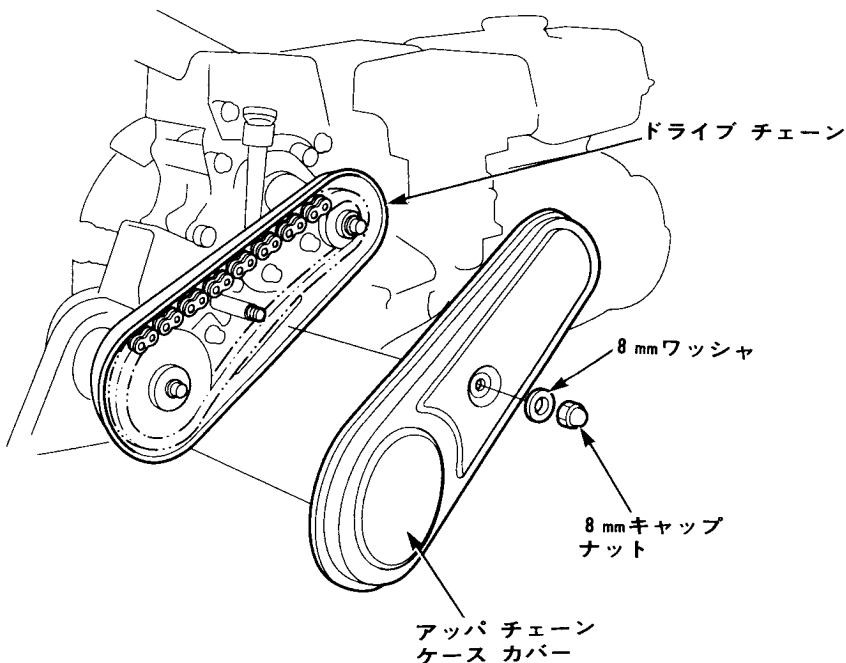
《給油時期》 3ヶ月毎または、50時間運転毎

《使用グリース》 マルチパーパス グリース

1. 8mmキャップ ナット、8mmワッシャを外し、アッパ チェーン ケース カバーを外します。
2. ドライブ チェーンにマルチ パーパス グリースを塗布します。
3. アッパ チェーン ケース カバーを取付け、8 mmワッシャ、8 mmキャップ ナットで確実に締付けます。

### ⚠注意

カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると手や衣服を巻き込み、思わぬ事故を招くことがあります。

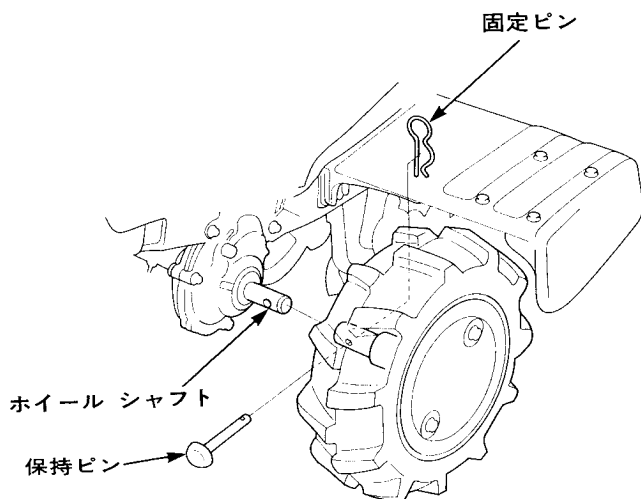


## 車輪の取外し、取付け

### ⚠ 注意

車輪を取外すときは、2 人で行ってください。本機が転倒し、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

1. 固定ピンを外し、保持ピンを抜いて車輪を取外します。
2. 車輪を取付け、ピン穴を合せ、保持ピンを取付けます。取付け前にホイール シャフトにグリースを塗布してください。
3. 固定ピンを取付け保持ピンを固定します。

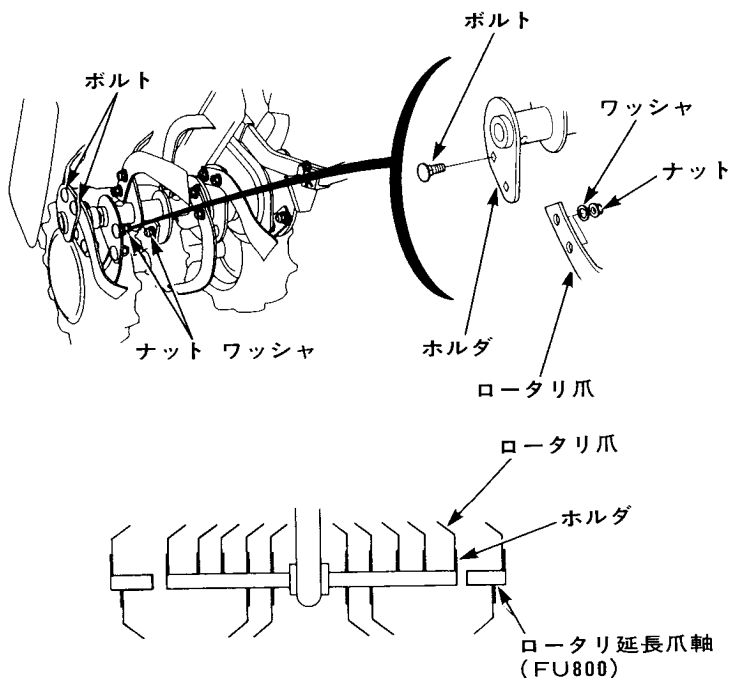


## ロータリ爪の取外し、取付け

### ⚠注意

ロータリ爪の取外し、取付けを行うときは、皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

1. 17mmレンチでナットを外し、ボルト、ワッシャ、ロータリ爪を取外します。
2. 取付けはホルダの穴にボルトの角部を合わせ取付け、反対側から、ロータリ爪、ワッシャを取付けナットを確実に締付けます。



ロータリ爪取付け位置(一般耕うん用)

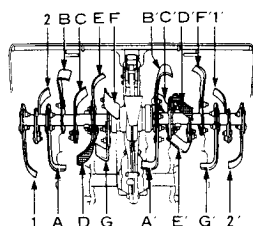
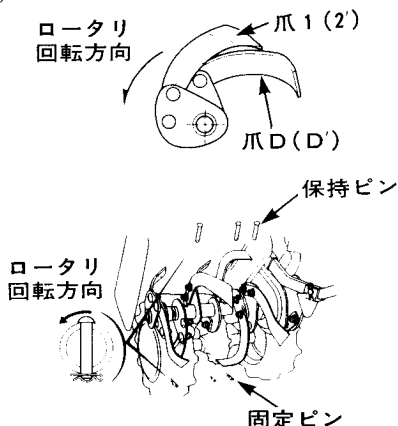
- ・作業に合わせたロータリ爪の配列のしかたは44頁を参照してください。

## ロータリ爪軸の取外し、取付け

### △注意

- ・ロータリ爪軸の取付け、取外しは、平坦な場所で木などの台で本機を安定させて行ってください。バランスがくずれ思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ・皮手袋などの丈夫な手袋をしてください。ケガをするおそれがあります。

1. 6mmボルト、ナットを外し、ロータリカバーを取外します。
2. 固定ピンを外し、ロータリ爪軸を手でささえながら保持ピンを外しロータリ爪軸を取外します。
3. ロータリシャフトにグリースをうすく塗布し、ロータリ爪軸を取付けます。  
刻印“R”のあるロータリ爪軸は右側に、刻印“L”のあるロータリ爪軸は左側にそれぞれ取付けます。
4. 左右のロータリ爪を図の向きに合わせ保持ピンを取付け、固定ピンで固定します。
  - ・固定ピンは抜け防止のためにロータリ回転方向の逆方向から差し込んでください。
  - ・爪AとG'が近い角度(約26°違い)に取付けます。
  - ・爪1とD、2'とD'が図のように近い角度になるように取付けます。



# 長 期 間 使 用 し な い と き の 手 入 れ

長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。

30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。

エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外します。

## ⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。

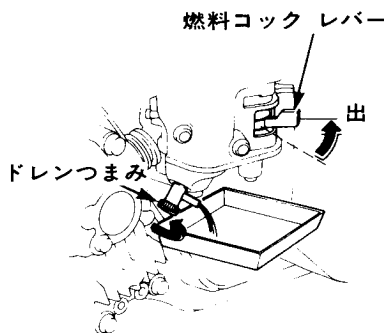
ガソリンを抜くときは

- ・換気の良い場所で行ってください。
- ・火気を近づけないでください。
- ・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。

1. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)内のガソリンを抜きます。

### 《抜き方》

- 1) 燃料コック レバーを“出”にします。
- 2) キャブレータのドレンつまみ(ガソリン排出用つまみ)を1～2回転ゆるめ、キャブレータと燃料タンク内のガソリンを抜きます。ガソリンは適切な容器で受けてください。
- 3) 完全にガソリンが抜けたらドレンつまみを確実にしめます。
- 4) 燃料コック レバーを“止”にします。



2. エア クリーナを清掃します。(清掃方法は52頁参照)
3. 始動グリップを重くなるまで引きます。(エンジン バルブが閉じ 燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)
4. クラッチ レバーを“切”にします。

#### 取扱いのポイント

- ・ 次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
- ・ 本機を水平状態にして平坦で安定した場所で保管してください。 ハンドルを地面につけた状態で保管するとエンジンがかかりにくくなる場合があります。

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

始動しないときは次の点を確認しましょう。

1. 始動方法は、取扱説明書通りですか？(31～35頁参照)
2. ガソリンはありますか？(22、23頁参照)
3. エンジン オイルは注入口、口元までありますか？(24頁参照)
4. 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？(54頁参照)
  - ・点火プラグの清掃や火花すき間の調整が正しく行えない場合、新しい点火プラグと交換してください。

クラッチが作動しないときは次の点を確認しましょう。

駆動ベルトの調整方法が取扱説明書通りですか？(61、62頁参照)

少し時間をおいてもう一度確認しましょう。

# 主 要 諸 元

|                  |                              |                           |
|------------------|------------------------------|---------------------------|
| 名                | 称                            | FU600                     |
| 型                | 式                            | FZAV                      |
| 区                | 分                            | LH                        |
| 機<br>体<br>寸<br>法 | 全 長                          | 1,510 mm                  |
|                  | 全 幅                          | 630 mm                    |
|                  | 全 高                          | 1,140 mm                  |
|                  | 輪 距                          | 360 mm                    |
| 装 備 質 量 [ 重 量 ]  |                              | 95 kg                     |
| 名                | 称                            | GX160K1                   |
| エ<br>ン<br>ジ<br>ン | 形 式                          | 空冷4ストローク エンジン (OHV)       |
|                  | 総 排 気 量                      | 163 cm <sup>3</sup>       |
|                  | 最大出力/回転速度<br>(SAE J1349に準拠*) | 3.6 kW (4.9 PS)/3,600 rpm |
|                  | 連続定格出力/回転速度                  | 2.9 kW (3.9 PS)/3,600 rpm |
|                  | 使 用 燃 料                      | 無鉛レギュラー ガソリン              |
|                  | 燃 料 タ ン ク 容 量                | 2.4 ℓ                     |
|                  | エンジンオイル容量                    | 0.6 ℓ                     |
|                  | 点 火 方 式                      | トランジスタ マグネット点火            |
| 始 動 方 式          |                              | リコイル スタータ                 |
| タ イ ヤ            |                              | 3.50-7                    |
| 主 ク ラ ッ チ 方 式    |                              | ベルト テンション                 |
| 変速段数             | 前 進                          | 3段                        |
|                  | 後 進                          | 1段                        |
| ロータリ             | 駆 動 方 式                      | センタ ドライブ                  |
|                  | 耕 幅                          | 500 mm                    |
| 安 全 鑑 定 適 合 番 号  |                              | 15010                     |

※:ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600 rpm (エンジン最大出力) にて測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力は、この数値と変わる事があります。完成機に搭載された状態での実出力値は、エンジン回転数及び使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

※諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ・ご相談は、  
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センター  
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010  
イフレアイオ

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00  
〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

- ① 製品名、タイプ名
- ② ご購入年月日
- ③ 販売店名

この商品の補修用部品の供給年限(期間)は、製造打ち切り後9年です。ただし、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

補修用部品についてのお問い合わせは、お買いあげいただいた販売店へお申しつけください。

